

# PAPER LOGOS



[www.logos.ne.jp](http://www.logos.ne.jp)

旅、人、アウトドア。

特集

BIKE  
と  
CAMP

2024  
VOL.

12

愛媛県松山市&今治市、広島県呉市&江島市、山口県岩国市&柳井市&熊毛郡、大分県宇佐市&竹田市など / 巻頭特集「BIKEとCAMP」は、免許取得後1週間だとい  
うのに走破距離まさかの約1171km! 暴挙か冒険か? / アイテムを厳選したBIKE旅な  
らではのCAMPにも注目 / イタリア・プーリア州 / 新連載「旅するごはん。」は、月刊LO  
GOSのレシピ企画も好評な料理人・船山義規氏の料理と旅のお話。「肉がパッサパ  
サ」とはこれいかに? / 春 / 群馬県・わたらせ渓谷鐵道、お台場、九十九里浜など /  
合言葉は「このチェアに座ってみませんか?」 / 春の気軽なアウトドアガイド5選 / 夏 / 新潟県南魚沼郡 / 「17歳のフジロック」は、歩くのが好き、音楽が好き、だけど、花  
火は好きじゃない女の子が主人公 / 秋 / アウトドアで焦げひとつないシャリを作り、ス  
ーパーのお刺身を美味なるネタに変身させて、握る! / 秋田県鹿角市 / LOGOS女子  
社員3人がEnjoyした「紅葉キャンプの休日」を / 冬 / 憧れの石やきいもにも挑戦。結  
論は「やきいもに失敗なし!」 / 北海道東川町 / 写真の町として知られる東川町は、美  
味なる水と楽しき人々が魅力的な町でもあった / 好評連載「島」の第3弾はついに海外へ  
。女性ユニット「おかっぱとボブ」が韓国・済州島へ。くいしんぼう&偶然の出会いの旅!

**trip + people + outdoor = PAPER LOGOS**





特集

004 BIKEとCAMP

新連載

- 028 旅するごはん。  
1st TRIP: イタリア・プーリア州  
「ブラチョーレ」

春

- 034 春とチェア  
040 LOGOS、する？

夏

- 048 17歳のフジロック

秋

- 062 秋はお外でお寿司です。  
068 紅葉キャンプの休日

冬

- 076 やきいもブギウギ  
080 北海道・東川町を旅してきました。

連載

- 092 島とおかっぱとボブ  
#03 韓国・済州島

たき火百景

- 060 姫木平ホワイトパーチキャンプフィールド  
074 たき火とボルケッタ  
110 波戸岬キャンプ場





特集

# BIKE と CAMP

すべては、PAPER LOGOSのおかげだった。

前号(11号)の連載「島」企画で利尻&礼文島を旅した時、  
雨にずっと降られたり、風に吹かれまくりだったというのに、  
原付バイクでの移動が、楽しくて、楽しくて、楽しかったのだ。

そのおかげで目指したのが、400ccまで乗れるBIKE免許の取得。

ゴールデンウィークを利用して連日教習所に通いまくり、

ようやく、免許が取得できたのは旅立ちの1週間前というギリギリのタイミングであった。

暴挙か、冒険か? 本誌編集長と相棒のカメラマンによる

BIKE&CAMP&BIKE&CAMPな約1171kmの旅、はじまります。

撮影: 関 暁 取材・文: 唐澤和也 取材日: 2024年5月24日~30日







## 道後温泉 — 愛媛県今治市

5月25日。いざ、B I K E旅のはじまり。  
愛車はホンダの「ハンターカブ」のターメリックイエローとシルバーマタリック。  
「ハンターカブ」は、リアキャリアにがつつりと荷物を積めるのが特徴のひとつ。

## 鍋焼きうどん アサヒ — 愛媛県松山市

5月24日。  
移動だけの前のりのランチに、  
ぶらりと入った店が名店だった。  
うまし。







瀬戸内しまなみ海道 — 愛媛県今治市

「瀬戸内しまなみ海道」は愛媛県今治市と広島県尾道市を7つの橋がつないでいて、9つの島に立ち寄れる。しかも！

瀬戸内しまなみ海道入口 — 愛媛県今治市

しまなみ海道は、基本的にサイクリングロードだが、「原付道」というルートがある。原付BIKEや125cc以下のBIKEならば通行OK。若葉野郎、行きます！



「SHIMANAMI」文字モニュメント — 愛媛県今治市

受川さんご夫妻。旦那さんは自転車歴10年だけど、奥様は今回が初めてのサイクリング。広島からバスで今治市まで来て、いままさにスタートするところ。



宗方港 — 愛媛県今治市

今回の旅は、四国↓本州↓九州↓四国という超ロングドライブ予定。3つの橋を渡ったのち、大三島の宗方港でフェリーに乗るというチョイスを。

呉屋さんと杉山さん — 愛媛県今治市

大阪在住の呉屋さん（写真左）は、ロゴサー（LOGOSアイテム愛用者）。東京から広島へ単身赴任（with BIKE）の杉山さん（同右）と合流してツーリングを。



HUNGRY?

左ページで紹介する宗方港にて。残念ながら、お食事と喫茶はやってなかった。親切な港のおばちゃんに教えてもらったカフェに移動するも満席で入れず。HUNGRY? YES!





# BIG SEASIDE PARK

— 広島県江島市

景観が見事なキャンプ場「BIG SEASIDE PARK」へ。ほぼ満月の下、誠さんに教えてもらったスーパーで買った食材で、さくっと夕食を。うまし。今回はBIKE旅のため、掲載できる物量に限界があるのでアイテムを厳選した。CAMPで重要な調理器具も厳選したため、今回の食事ではメスキットが大活躍。



## 阿賀の海辺

— 広島県呉市

フェリーの着いた岡村港（愛媛県今治市）から、ぐいんと走って広島県へ。海岸線でひと休みしていたら、素敵な家族が。清水誠さん&りみちゃん&あみちゃん。先日、誠さんとりみちゃんの2人で来たら、キスが大量で22匹も釣れて今日も！……とみんなで来たらなんと！……2匹（涙）。土地勘のない我々におすすめのスーパーをしてくれた誠さんに「最近がんばってることは？」と聞いてみると「子育てです！」と即答。即答がかっこよかった。





国森家住宅 | 山口県柳井市

江戸中期に建てられた商家。金魚は、幕末の頃に青森県弘前市の「金魚ねぶた」に着想を得て、伝統織物である「柳井織」の染料を使って作ったのがはじまり。



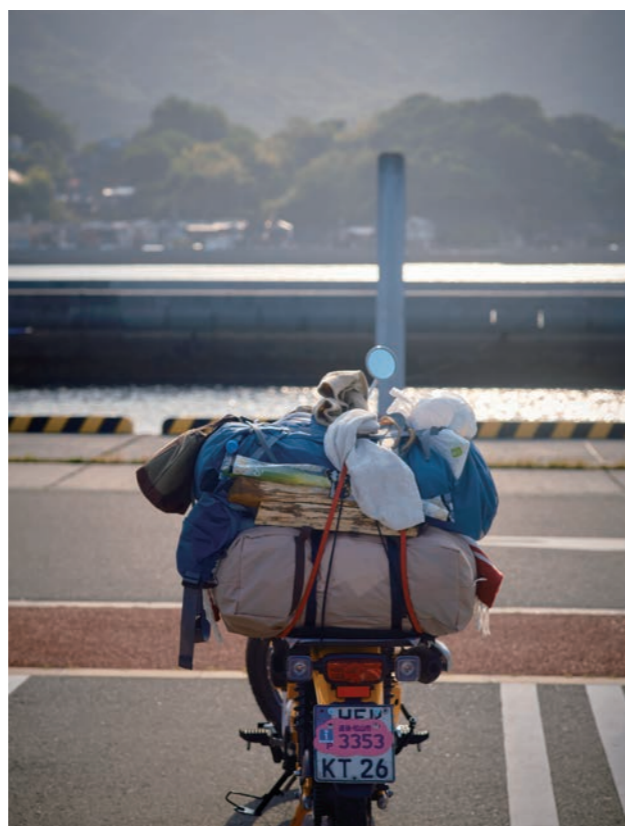
上関町中ノ浦海浜公園 | 山口県熊毛郡

山口県内のキャンプ場としては珍しい、砂浜でCAMPができる。しかも無料。予約も不要。トイレも完備。最高！だがしかし、深夜からは大雨だったのです。



由宇駅 | 山口県岩国市

なぜ山口県なのにカープタウン？ それは、広島東洋カープの2軍本拠地球場がここにあるから。ちなみに、だいぶ運転に慣れてきた編集長は、阪神タイガースファンです。



薪とネギ

道の駅「上関海峡」で買い出しを。前日のCAMPで余った薪を荷物の隙間に埋めて、緩みをなくす作戦だったのだけれど、ネギとのコラボがシニール。



BIKEとにほひ

呉屋さんと杉山さんが教えてくれたBIKEの魅力のひとつが、風や匂いをダイレクトに感じられること。牡蠣の、にほひは、趣ありでした。



錦帯橋 | 山口県岩国市

山口県へ。1673年に建造された木造橋であり、昭和25年の台風で流失したりもしつつ、いまだに木組みの技法で造られている国指定の名勝。橋の長さは193m。



ご挨拶が遅れました

「LOGOS ラージメイトカッティングステッカー」と申します。



潜水艦棧橋 | 広島県呉市

呉市の湾岸部分を走っていると停泊中の潜水艦が！海上自衛隊「呉潜水艦基地隊」などがあり、日本で唯一、間近で潜水艦が見られる場所として有名。



はじめて覚えたアウトドア用語は「ベグダウン」だった。

2011年、いまから13年前のこと。北海道の岩見沢市で開催されたフェス、JOIN ALIVEを『月刊LOGOS』というWEBマガジンで取材することになった。部下はゼロ人だったけど、立場的には編集長である。現地に集合すると、各自でテントを建てること。みんなが北の地での我が家を着々と建てていくなか、僕だけがハンマーを握って立ち尽くしていた。そりゃそうだ。それまでに自分でテントを建てたことなんて、ただの一度もなかったのだから。

「編集長、ベグダウンしてください」

神の声がした。LOGOSのやさしき女性スタッフはそう言うと、地面に対して45度ぐらいで釘みたいなやつを打ってテントを固定するべしと教えてくれた。おお、無事に建ったぞ、僕のテントが。それだけで1000ピースのバスルを完成させたぐらいの達成感だった。

驚くべきは、そんなアウトドア初心者を自社メディアで編集長に抜擢した人がいるということだ。当時の僕は「ベグダウン」どころか最大の外出が映画館という仕事もプライベートもインドア派だったのに、プロデューサーが言った。「『月刊LOGOS』が、アウトドア初心者である編集長の育児日記みたいになるといいですね」

あれから13年。

アウトドア上級者になれた感覚は一切ないけれど「少しは育ったかも？」と思えたのが、このBIKE旅だった。普通自動2輪(昔でいうバイク中型免許)を取得したのが、5月17日、すなわち、旅立ち1週間前。若葉も若葉、なんだった

ら葉っぱがまだ芽吹いていない状態にもかわらず、一切の不安がなかった。なぜか？ この特集の冒頭にも書いたように、北海道の礼文島&利尻島を原付BIKEで旅をした経験が楽しくて、楽しくて、楽しかったからだ。

とはいえ、原付ではCAMPAイテムを積み込めないのが、普通自動2輪免許を新たに取らねばならず、旅そのものよりも、免許取得までの日々のほうが不安は大きかった。というか、泣きそうだった。卒業検定に落ちてしまい、旅立ち予定日までに免許取得が間に合わないかもしれぬと追い込まれたからだ。

どうする？ どうする、編集長？

猛勉強した。YouTubeのありとあらゆる動画をチェックして、「クラシック」「一本橋」などの自分が苦手な課題を克服した。神の声がした。「はじめからそうしなさい」。そのとおりだった。

動画チェックを終えた僕は、それでも不安で、ありとあらゆるゲンをかっくこととした。2度目の卒業検定前夜、食べると転ばないとの伝承もある梅干しを食べた(それも2個)。試験当日は、LOGOSのTシャツを着て、スニーカーはLOGOSのブランドカラーである緑をチョイスした。軽く捻挫していた左手首には、映画『THE FIRST SLAM DUNK』で宮城リョータが付けていたものに似た赤いリストバンドをつけることにした。勝負ごとに強いリョータにあやかるべく、前日にわざわざ買いに行ったのだった。

結果、無事合格。

だから、旅ができていた。5月25日。まずは、愛媛県松山市から山口県熊毛郡へとBIKEを走らせたのだった。





日本最大級のカルスト台地・秋吉台へ。

カルストとは、石灰石などの溶けやすい岩石で構成された大地が、雨水や地下水などに侵食されてできた地形のこと。

ところで、お気づきだろうか？ 青い服でトトロと走っているのが本誌編集長だということに！

しかも走っているところは「カルストロード」と呼ばれるバイカー憧れのツーリングコースということに！

もちろん、この時の天然編集長は、そんな有名なコースだなんて知らずに「いい景色だなあ」などと心の中でつぶやきつつ、のんびり走っています。

017

016

秋吉台展望台 — 山口県美弥市